

<2024年1月1日 能登地方M7.6 最大震度7の地震の前兆について>

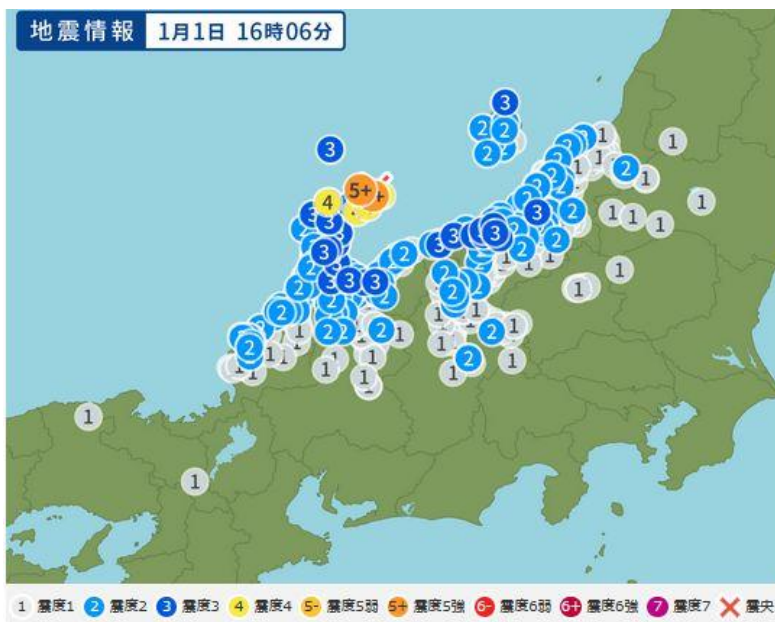


2024年1月1日元旦に発生した令和6年（2024年）能登半島地震は M7.6、最大震度7という巨大地震では大きな被害が出ました。この地震について、残念ながら直前の予知は出来ませんでした。しかし今回の地震の前に、どのような前兆現象があり、どんなデータが出ていたか？また、2007年3月25日の能登半島沖M6.9の大地震と2023年5月5日の能登地方M6.5の地震の時の前兆データの類似性について、ここでしっかり分析してこの先の大地震に備えることは重要と考えて、以下に、関連するデータや経過を載せて行きます。

<地震発生の状況、前震があった>

- 1、今回の地震は、16時10分の本震の、約4分前の16時06分ごろにM5.7、最大震度5強の地震が発生しています。
- 2、その直後（4分後）にM7.6最大震度7の本震が発生しています。
- 3、また さらに約8分後の16時18分ごろにはM6.1最大震度5強の地震が発生し、16時10分から18分の、わずか8分の間に最大震度5強、震度7、震度5強という強い揺れに襲われたこととなります。

2024年1月1日 16時06分ごろ 石川県能登地方 M5.7 最大震度5強



発生時刻	2024年1月1日 16時06分ごろ
震源地	石川県能登地方
最大震度	5強
マグニチュード	5.7
深さ	10km

2024年1月1日 16時10分ごろ 石川県能登地方 M7.6 最大震度7 (本震)



発生時刻	2024年1月1日 16時10分ごろ
震源地	石川県能登地方 (輪島の東北東30km付近)
最大震度	7
マグニチュード	7.6
深さ	ごく浅い

2024年1月1日 16時18分ごろ 石川県能登地方 M6.1 5強



発生時刻	2024年1月1日 16時18分ごろ
震源地	石川県能登地方 (輪島の南南西20km付近)
最大震度	5強
マグニチュード	6.1
深さ	10km

<前震が被害を助長した可能性について>

16時10分のM7.6の本震の約4分前に、前震になる、M5.7 最大震度5強の地震が発生したことにより、最初の地震によって崩れやすい建物の様子を見に行き、次の本震の揺れで建物が崩れて亡くなった等、被害にあった人が多くいることをニュースでやっていました。データを見ると、M5.7では小さいと言えますが、まさか4分後に本震が来るとは、誰も考えなかったと思われます。

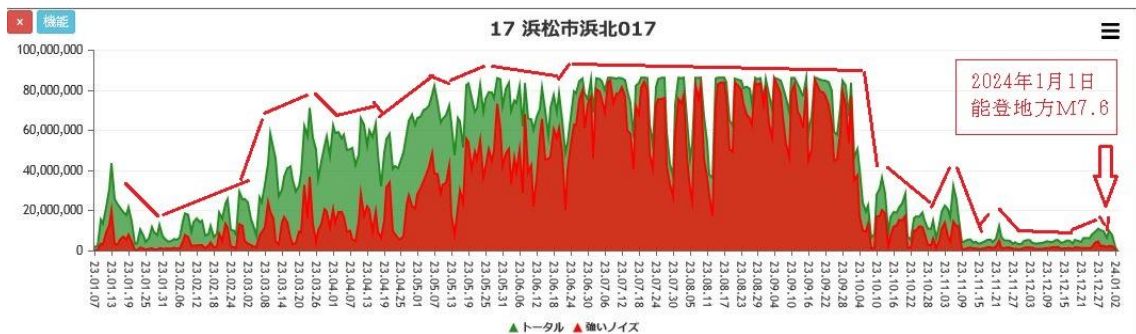
<今回の地震の前兆データについて>

今回の地震の前兆データとして、はっきりしているのは 以下のように、太平洋側の【浜北 017】の観測点の長期、大型データの減衰、収束です。

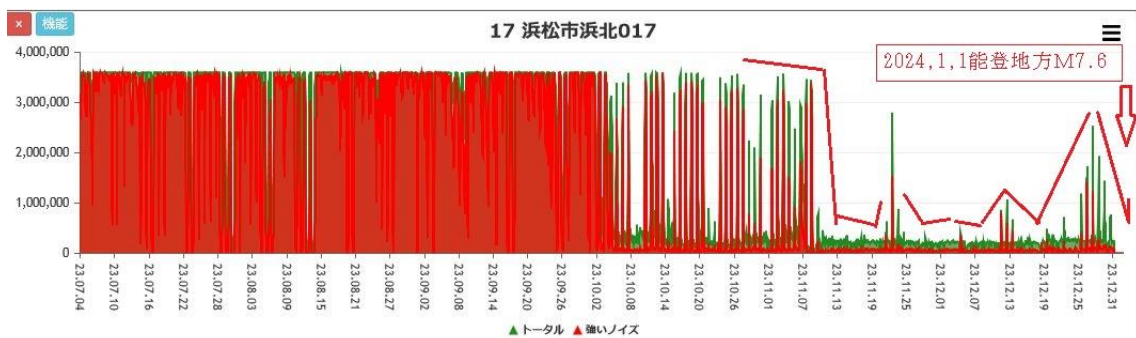
2023年12月31日までの浜北 017 720日間（日毎）データ



2023年12月31日までの浜北 017 360日間（日毎）データ



2023年12月31日までの浜北 017 180日間データ



2023年12月31日までの浜北017 30日間データ



<その他の関連する、と思われるデータについて>

東伊豆 90日間(日毎)データ



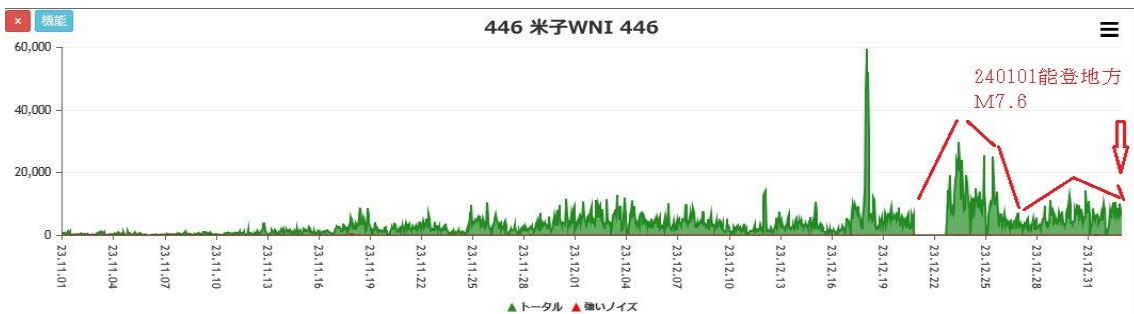
高知県安芸 90日間(日毎)データ



滋賀県守山 90日間(日毎)データ



島根県米子 90日間(日毎)データ



<240101 異常データの出ている観測点と震源との位置関係について>



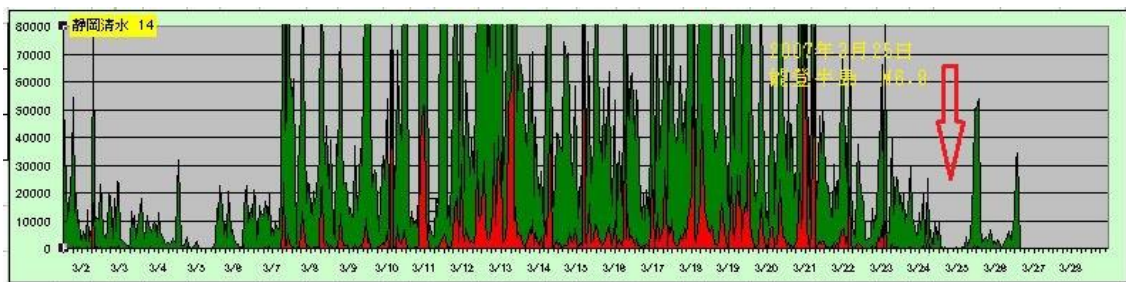
<過去の異常データの出ている観測点と震源の距離について>

<<その 1、2007 年 3 月 25 日の能登半島沖地震M6.9 との類似性>>

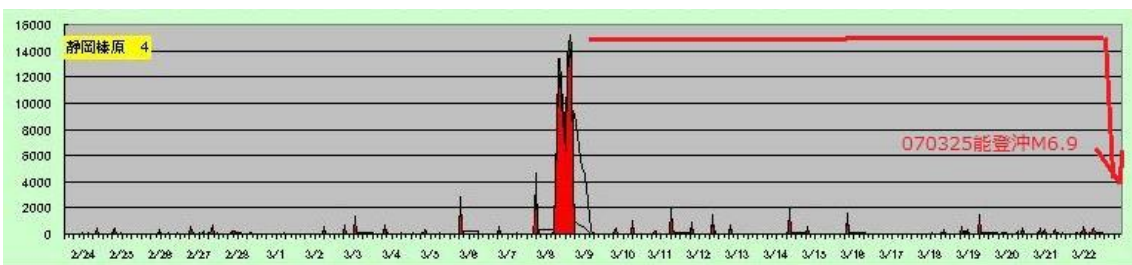
しかし一番被害の大きかった能登地方の震源域と、異常データの出ていた【浜北 017】の観測点の位置は、静岡県の浜松と能登地方であって、距離がかなり離れています。

この点について、そっくりの事例が 2007 年 3 月 25 日の能登半島沖地震M6.9 になります。当時、静岡県清水の観測点（東海大地震予知研究所）と浜松、榛原の観測点に異常データが出現し、清水のデータが減衰一収束した時点で 2007 年 3 月 25 日能登半島沖地震M6.9 が発生しています。以下が関連データです。

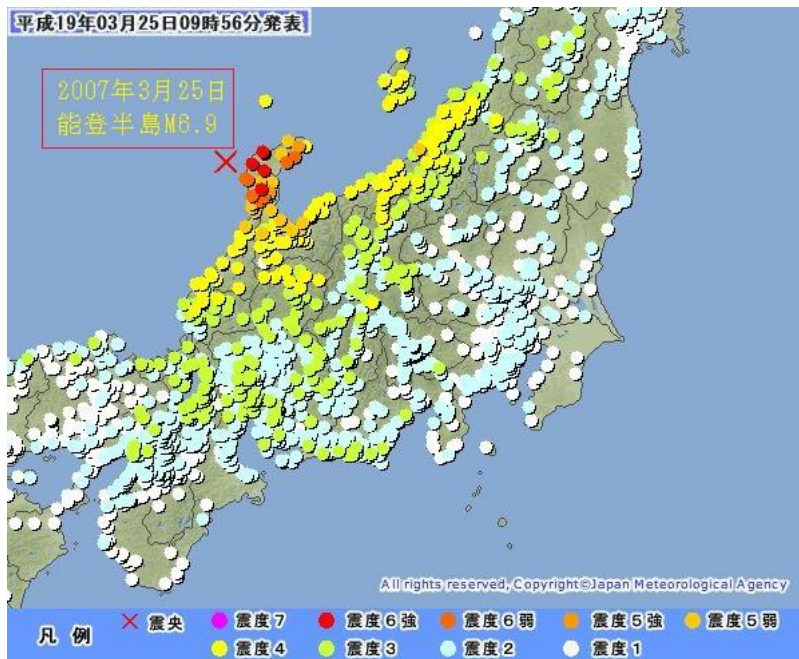
2007 年の場合 静岡県清水の観測点のデータ



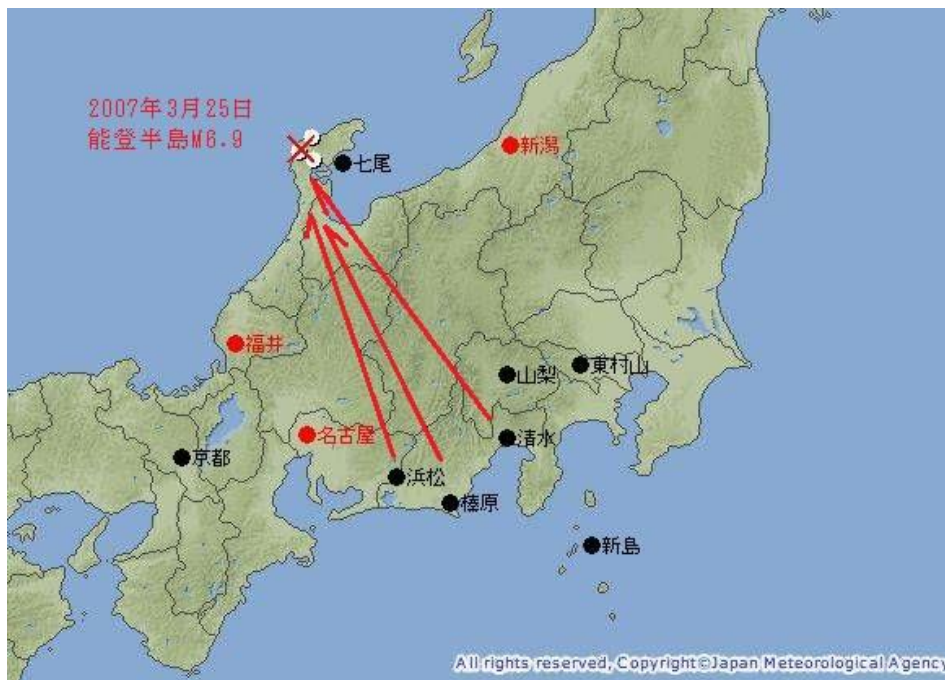
2007 年の場合 静岡県榛原の観測点のデータ



地震発生：2007年3月25日能登半島沖地震M6.9



2007年3月25日能登半島沖地震M6.9と観測点の位置関係



<その2、2023年5月5日能登地方M6.5の地震との類似性>

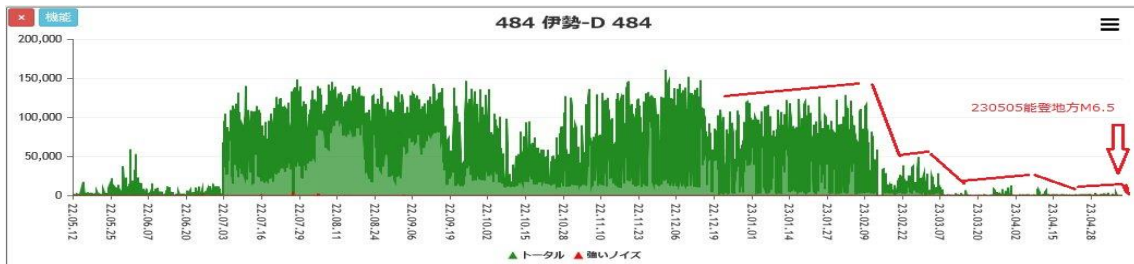
昨年2023年5月5日の連休の最中にも 能登地方でM6.5、最大震度6強の大地震が発生しています。このときは前兆として、【伊勢D484】【伊勢B262】【和歌山一A】【富山】【米子】などの観測点で異常データが出ており収束して地震が発生していますが、これらの観測点も【富山】以外は、震源との距離はかなり離れています。つまり大地震の前兆としての電磁波ノイズは、地震の規模が大きくなれば震源から離れた位置で異常データが出る、という傾向があります。

地震発生：2023年5月5日 能登地方M6.5 最大震度 6強



発生時刻	2023年5月5日 14時42分ごろ
震源地	石川県能登地方
最大震度	6強
マグニチュード	6.3
深さ	10km

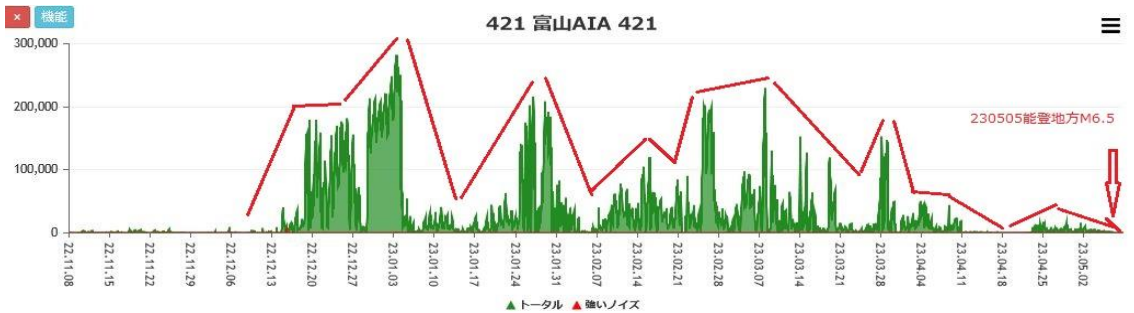
2023年5月5日 伊勢D484 360日データ



2023年5月5日 伊勢B262



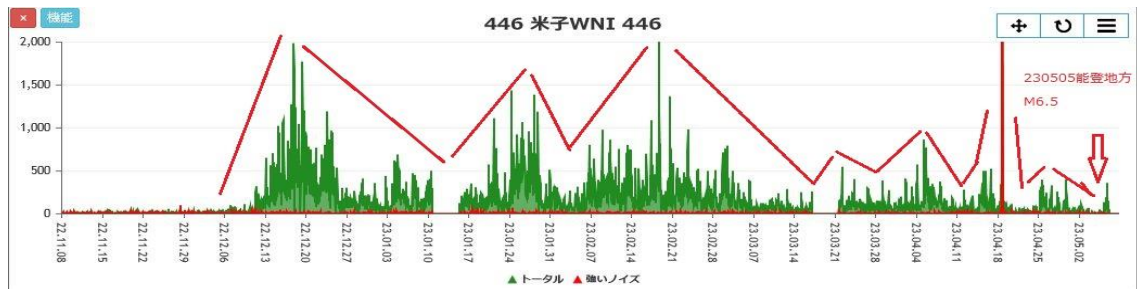
2023年5月5日 富山421



2023年5月5日 和歌山一A



2023年5月5日 米子



2023年5月5日の震源と異常データの観測点の位置関係



<<大地震の前兆の電磁波ノイズは、地震の規模が大きいほど震源から離れた位置で異常データが出る>>

上記のように、今回、2024年1月1日 能登地方M7.6 最大震度7の地震の前兆としての電磁波ノイズは、2007年3月25日の能登半島沖地震M6.9の場合、及び、2023年5月5日能登地方M6.5の地震の場合と同様に、震源から離れた位置で異常データが出ていると言えると考えられます。つまり大地震の前兆としての電磁波ノイズは、地震の規模が大きくなれば、震源から離れた位置で異常データが出る、という傾向があります。

これは一種のドーナツ現象のようなもので、大地震の前兆現象は震源の真上でなく震源域を広く囲むような周囲の位置に出てくると考えられ、震源と観測点の距離は地震の規模が大きくなれば遠くなる、と考えられます。

<<過去の大地震の震源と異常データの観測点の位置関係の例>>



<2023年11月～12月の逆ラジオ通信の配信記録について>

以下に、昨年11月～12月に配信した逆ラジオ通信の抜粋を載せます。11月の段階では中部地区の大地震の可能性を言っていて、主に太平洋側を考えていました。

11月22日配信の 逆ラジオ通信★★ No.43 W-231122

<【浜松市浜北017】の大きなデータはまださらに減衰途中>

【浜松市浜北017】は350万の大きなデータが、減少傾向が続き、今週も反転することなく ゆっくりした減衰になっています。まだ収束ははっきりしません、いずれにせよ、この先、東海地方の大きな地震に注意が必要で、再度、日程を更新して以下の予測を続けます。

<中部地区の大地震の可能性>

震源：浜松周辺から遠州灘、熊野灘など

地震の規模：M6クラス以上

発震予想：11月22日から約1週間程度

11月29日配信の、逆ラジオ通信★★ No.44 W-231129

<【浜松市浜北017】の大きなデータに注意>

【浜松市浜北017】は350万の大きなデータが、減少傾向が続き、今週も反転することなく ゆっくりした減衰で、「11/28 遠州灘 M4.9、D310km 最大震度1」が発生し、これが前震の可能性もあり、この先、東海地方の大きな地震に注意が必要で、もう1度、日程を更新して以下の予測を続けます。

<中部地区の大地震の可能性 再再度>

震源：浜松周辺から遠州灘、熊野灘など

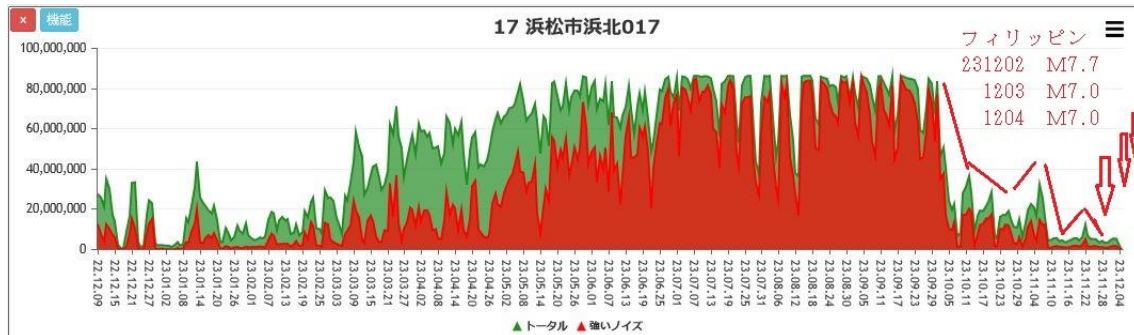
地震の規模：M6 クラス以上

発震予想：11月28日から約1週間程度

<フィリピンの大地震との関連について>

しかし地震がなかなか発生しないことから、12/2 にフィリピンでM7.7の大地震が発生し、いまだに中部地区、太平洋側の大地震がないために、12/2 フィリピンM7.7の大地震との関連を考えてしまいました。

地震発生：12/2 フィリピンM7.7



<宏観現象一鳥の大合唱について 参考>



今回1月1日の能登地震の前、約3日間ほど、世田谷の鳥たちが大騒ぎしてまいりました。これは2007年3月25日の能登半島沖地震M6.9の前、数日間でも経験しています。

周波数の異なる電磁波ノイズが発生していた可能性があります。